



人間を救うのは、人間だ。

日本赤十字社
Japanese Red Cross Society



～献血の前に～

- ◆ 前日の夜は十分な睡眠をとってください。
- ◆ 当日は必ず食事をとってご参加ください。
- ◆ 3日以内に薬を飲まれた方はご申告ください。
- ◆ 以下に該当する方は献血をご遠慮ください。



- ① 3日以内に出血を伴う歯科治療（歯石除去を含む）を受けた方
- ② 4週間以内に海外旅行から帰国された方

※ 検診医の判断により、上記以外にもご遠慮いただく場合があります。

※新型コロナウイルスに感染された方は、症状軽快後2週間経過していればご協力いただけます。
（ワクチン接種された方もファイザー社・モデルナ社・第一三共社製のものであれば、接種後48時間経過していればご協力いただけます。）

想像してみてください

あなたの大切な人に輸血が必要になったら・・・

医療技術の進歩した現在でも、血液は人工的に造ることができず、輸血に必要な血液をいつでも十分に確保しておくには絶えず誰かの献血協力が必要になります。

現在、1日平均約3,000人の方が輸血を必要としています。多くのご協力をよろしくお願いします！



献血の日です。

献血は 一番身近な ボランティア
あなたの“きもち”で助かる“いのち”があります



献血日	11月2日（日）
受付時間	午前10:00～12:00 午後 1:30～ 3:30
場 所	一宮市千秋町出張所 （千秋公民館）

400mL献血限定会場

輸血に伴うリスク軽減のため、ご理解をお願いいたします。
（体重50kg以上の方に限ります）

<血液検査サービス>

献血された方には糖尿病・肝機能・腎機能・コレステロールなどの検査を行いお知らせします。健康管理にお役立てください。

※献血基準の詳細についてはお気軽に愛知県赤十字血液センター職員までお尋ねください。

献血カード・アプリをお持ちの方はご持参ください。



献血カードのスマホアプリは

こちらからダウンロード →



愛知県赤十字血液センター

自然保護のため再生紙を使用しています。

献血の基準について

健康な方ならば、献血による身体への影響はほとんどありません。しかし、体調をくずしていたり、健康状態の良くない時に献血をすると健康を損ねる場合もあります。献血者の健康を守るためにさまざまな基準を設けています。

(献血基準)

献血の種類 項目	全血献血		成分献血	
	400mL献血	200mL献血	血漿成分献血	血小板成分献血
1回献血量	400mL	200mL	600mL以下 (循環血液量の12%)	
年 齢	男性:17～69歳※1 女性:18～69歳※1	16～69歳※1	18～69歳※1	男性:18～69歳※1 女性:18～54歳
体 重	男女とも50kg以上	男性:45kg以上 女性:40kg以上		
最高血圧	90mmHg以上 180mmHg未満			
最低血圧	50mmHg以上 110mmHg未満			
脈 拍	40回/分以上 100回/分以下			
体 温	37.5℃未満			
血色素量 (ヘモグロビン濃度)	男性:13.0g/dL以上 女性:12.5g/dL以上	男性:12.5g/dL以上 女性:12.0g/dL以上	12.0g/dL以上 (赤血球数が標準域にある 女性:11.5g/dL以上)	12.0g/dL以上
血小板数	—	—	—	15万/μL以上
1年※2に献血できる回数 (1年は52週として計算)	男性:3回以内 女性:2回以内	男性:6回以内 女性:4回以内	血小板成分献血1回を2回分に換算して 血漿成分献血と合計で24回以内	

※1 65歳から69歳までの方は、60歳から64歳までの間に献血の経験がある方に限られます。

※2 期間の計算は直近の採血を行った日から起算します。

(献血の間隔)

今回の献血 前回の献血	全血献血		成分献血	
	400mL献血	200mL献血	血漿成分献血	血小板成分献血※
200mL献血	男女とも4週間後の同じ曜日から献血できます			
400mL献血	男性は12週間後、女性は16週間後の 同じ曜日から献血できます		男女とも8週間後の同じ曜日から 献血できます	
血漿成分献血	男女とも2週間後の同じ曜日から献血できます			
血小板成分献血				

※血漿を含まない場合には、1週間後に血小板成分献血が可能になります。ただし、4週間に4回実施した場合には次回までに4週間以上あけてください。

献血Q&A



献血は誰でもできるの？

A. 献血者の健康面の安全を確保するため、また、輸血を受ける方の安全を守るために、献血を行っていただけるかの問診を行います。献血基準の主なものは、左図のとおりです。

また、輸血を受ける方の安全を守るため、HIV(エイズの原因となるウイルス)感染が疑われる方、輸血や臓器移植を受けた方、一定の期間に英国などへの海外滞在歴がある方等については問診で確認し、献血をご遠慮いただいています。



献血の際に、病気がうつることはありませんか？

A. 衛生環境は厳重に管理しているため、心配ありません。

献血をする時に使われる針や血液のバッグなどは、献血者一人ごとに新しいものと交換されますので、ほかの献血者から肝炎ウイルスやHIVなどがうつる心配は絶対にありません。



初めての献血ですが、400mL献血でも大丈夫ですか？

A. 献血前に医師が問診により健康状態を伺い、血圧や血色素量(ヘモグロビン濃度)を測定して、採血基準に適合するかどうかを判断しますので、ご安心ください。

ちなみに、人間の血液量は一般的に男性で体重の約8%、女性で体重の約7%といわれており、例えば、体重50kgの方であれば、男性は約4,000mL、女性は約3,500mL血液が流れています。

医学的にみて全血液量の15%以内が失われても問題がないことが報告されていますので、男性600mL、女性525mLまでの献血は問題ないことになります。



医療の現場では、どれくらい400mL献血の血液製剤を必要としているのでしょうか？

A. 全国の医療機関への赤血球製剤の供給は、97%以上が400mL献血由来の血液製剤となっております。



愛知県赤十字血液センターのホームページはこちら！

<https://www.bs.jrc.or.jp/tkhr/aichi/>

